



編集・発行 山見乃勢能報部  
〒563-0132 中野町能勢郡豊能府大阪  
電話 072-739-0329  
FAX 072-739-2883

### 数珠売りのおじさん

服部憲厚

お釈迦さまの聖地を巡礼するため、今年一月インドを訪れた。お釈迦さまを生んだインドという国は面白い。最もそう感じたのはヒンズー教の最大聖地、ベナレスを訪れたときである。

インド人にとって母なる川、ガンジス川の沿岸に栄えるこの街はいつも人で溢れている。ベナレスで一泊した私は、早朝のガンジス川へ行つた。人々が沐浴する横で洗濯する女性や火葬の灰を流す側で泳ぐ子供。異様なほどの活気に満ちていて人々が信仰と日常とをこの川と共に一緒くたになつて生きている姿がいい。

きつとお釈迦さまもこんな風景を見ていたのだろうと、川岸へ下りたときである。一人の怪しいおじさんが近寄ってきた。

「ジユズ、ヤスイヨ！」  
数珠売りのおじさん。「コレハ、ボダイジュ。」「ヒヤクヤツツ！」

片言の日本語でのセールストークは、すべての射ていて感心したが、どうやらおじさんは、私が日本人の仏教徒だと知って売りに来たようである。

「ボダイジュ」とは木の名前。お釈迦さまがこの木の下でさとりを開かれた、と伝わる有難い木「菩提樹」のことである。それゆえ数珠の原料として好んで使われることが多い。

さらに「ヒヤクヤツツ」とは、私たちの欲望や本能の数で、いわゆる「煩惱」の数である。数珠は、概ね珠の数が「百八つ」と決まっているのだ。考えてみれば数珠には仏教の教えが凝縮されている。煩惱に打ち勝ち、仏さまに近づいたための大切な法具なのである。

足早に雑踏の中に消えた。どうやら私はほったくられたらしい。海外に行かれる際は、くれぐれも注意していただきたい。しかし、ものは考えようである。あのおじさんは、それだけの価値がある数珠を私に売ってくれたのだ。

- 【4月の主な行事】
- ★写経会 12日(日)11時
  - ★清掃の日 15日(水)11時
  - ※境内清掃の作務行です
  - ★月例祈願法要 15日(水)13時
  - ★星嶺茶論 19日(日)13時
  - ★開運祭 20日(月)終日
  - ※寺務所窓口にて開運守授与
  - ★鷗様月例祭 22日(水)15時
  - ★星嶺祭 29日(祝)
  - 11時30分 星の子パレード
  - 11時45分 子供祈願大法要
  - ※法要後は人形劇・太鼓演奏・子供福引大会など
  - ★星嶺祭参加者募集!
  - ☆星の子(祈祷料三、〇〇〇円)
  - 参加希望者は11時に集合
  - ※状況により内容・実施方法を変更することもあります

### 《法華經に学ぶ現代》 純智庵

衆生を

悦ばしめんが

爲の故に

無量の

神力を

現じたもう

『神力品第二十一』

悦ぶ顔を

見たいのは

神も仏も人もみな

同じ気持ちと

思うけど

こんな不信の時代では

なかなか

それが叶わない

今こそ

みんなが我を離れ

一致団結する時だ

無量の神力

出てくるぞ

### 【5月の行事予定】

- ★写経会 10日(日)11時
- ☆妙見大菩薩年大祭 15日(金)
- 11時 修法特別加持祈祷
- 11時50分 講演 露の団姫師
- 13時 星嶺にて祈願法要
- ※特別祈祷のお申込は寺務所にて受け付けています
- 《交通のご案内》
- ◆ケーブル&リフト毎日運行中

# 形とこころ

偉美理庵

小学校の卒業式でも、和服に袴の姿を見かけることが多くなってきた。

新型コロナウイルスの影響で式典が挙げられなくなってきたのは嘆かわしいことだが、一生に一度しかないハレの行事だ。後日に残る形をしっかりと留めておくことも大事なことだ。

馬子にも衣装という言葉があるが、人は外見に左右されることは少なくない。日頃はお転婆な娘さんが、ドレスを身につければレディになり、和服を着てお茶席にでも出掛ければ、おしとやかな大和撫子になる。人を外見で判断してはいけない。

とは言うものの、外見を飾る効果は小さいものではない。昔話に良寛さんのお話がある。あるお屋敷に呼ばれて粗末な普段着で出

掛けていったところ、門番に物乞いに間違えられて追い返された。そこで今度はきらびやかな立派な法衣を着て行ったところ、大変なもてなしようだった。豪華なご馳走を出された良寛さんは、法衣をはずしてその前にご馳走を並べ、「あなたのご馳走したいのは、私ではなくこの法衣にしよう」といったとか。

たしかに、品のよいスーツを着て高級車から降り立った人と、長靴に作業服を着て軽トラで乗り付けた人とは、対応がちがう。接待する側としては大いに気をつけなくてはならないことだ。

しかし、外見を飾るといふことは、単に外側から見ている者の感じ方を変えるだけではない。実は衣装を身につけているその人の内側、つまり本人の心のあり方をも変えていることにな

書庫の片付けを始めた。個人としてはかなりの書物を収めることが出来る広さをとってしたが、一冊二冊と買いつめた結果、今や床にまであふれている。専門書以外の雑誌や小説などもあり断捨離を決心することにした。単純に要・不要に分けただけだがこれが中々

## ☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

進まない。確かめようと読み始めると止まらなくなってしまうのである。すでに頭に入っているはずだが何故か新鮮な感覚で読むことができるのである。  
毎日読経唱題を繰り返して飽きることがないのも、仏の教えがその時々心に新鮮に響く故のことと思う。  
K.J

飾り立てるのではなく、身だしなみを整えると言いつつ換えたらどうだろう。厳粛な式典に正装で臨む。「自分分は自分、人は人」ではなく、他への思いやりにより場に応じた形を表すことも必要なことだ。  
同様に、仏は外見ではなく真心を受け止めて下さるとはいうが、仏前に詣でるとき、身形を改めることによつていつそう厳肅な気持ちになることも大切だ。

**俳壇** (みのり)

時鳥ほととぎす早き日覚めかひの家

児のつくる人形の家花盛り

楽しみし筍猪に取られけり

うららかや溪を隔てて一部落

荷を解くや磯の香溢るるわかめかな

## 法華経茶話Ⅱ

仏教誕生の時代背景①

さて今月から法華経茶話第二部に移ります。第一部では法華経成立の背景に關しては概略的部分のみの解説になってしまったので、第二部ではもう少し細かくみてまいりましょう。  
まずは、釈尊御在世当時のインドの宗教事情についてです。当時のインドでは、バラモン教という宗教が中心でした。バラモン教では人々を四つの階級(カースト制)に分けます。バラモン(司祭者)クシャトリア(王族)ヴァイシヤ(一般市民)シュードラ(奴隸)です。バラモン教といわれるくらいですから、バラモンが圧倒的な権威を持っていました。しかし、釈尊が出家した頃のインドでは、バラモンの権威と権力に対して疑問視されるようになっていました。高度経済成長によって、農民や商人等が力を持ち始めたのです。